

花の品種改良の取り組み

加茂荘花鳥園の業務の大半は植物の大規模な育種です。1980 年から始まった品種改良の取り組みによって 100 種類以上の新しい花の品種が加茂荘花鳥園で開発されました。ここでは主に花菖蒲とアジサイを育てていますが、ダイヤモンドリリーやサクラソウその他の花も育てています。加茂荘花鳥園で育った花菖蒲とアジサイは極めて高品質であることで有名で、国内で販売され、海外に輸出されています。日本には加茂荘花鳥園で開発したアジサイの品種が多く存在します。1 年のうち時期によっては、まだ名前のついていない新種の一部が温室で展示されます。

新しい品種を販売できる状態にまで十分に開発するには数年かかる場合があります。加茂荘花鳥園で開発される新たな花の品種のほとんどは、加茂荘から数百メートル離れた場所にある専用のナーセリーで栽培され、登録され、命名されてから、販売や輸出ができるようになります。ナーセリーの花の一部は、5 月と 6 月の限られた期間に園内のギフトショップで購入することもできます。